

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金(道路事業)		路線又は箇所名等		主要地方道 鎌ヶ谷本埜線バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成 8年度	用地着手年度	平成 8年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成10年度 令和7年度	再評価の理由	再々評価		
費用便益比 B/C	1.7 (13.6)	総費用	116億円 (15億円)	総便益	198億円 (198億円)	基準年	令和 5年度	供用開始 年度	令和 5年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

主要地方道 鎌ヶ谷本埜線は、千葉県の北部に位置しており、鎌ヶ谷市初富地先を起点に国道464号の一部と重複し、印旛郡栄町安食ト杭を終点とする延長約31キロメートルの重要な幹線道路である。

このうち、本バイパス事業区間の現道部においては幅員が狭くカーブも連続していることから、交通の走行性や安全性、利便性の向上を目的として、印西市萩原から印旛郡栄町安食までの延長4.5キロメートルのバイパス整備を進めているものである。

- ・総事業費：78億円
- ・事業延長：L=4.5km
- ・事業期間：平成8年度～令和7年度

【事業の進捗状況】（令和5年度末見込み）

	全体計画（億円）	投資事業費（億円）	残事業費（億円）	進捗率（%）
全体	78	72	6	92

【社会経済情勢等】

- ・事業区間の現道部は幅員が狭く、急カーブが連続しており、車両同士のすれ違いが困難である。
- ・第三次救急医療機関の日本医科大学千葉北総病院への救急搬送は、幅員が狭く、急カーブも多くあることから、患者への負担軽減のため現道を利用せず、市道へ迂回している。

【対応方針（案）】 継続

事業全体の費用便益比（B/C）が1.7（残事業13.6）であり、事業の投資効果が見込まれる。

整備効果として、バイパス整備による移動時間の短縮、周辺道路の交通の円滑化による交通事故の減少などに寄与することから、事業の必要性・重要性が高く、着実に事業を推進していることから、事業を継続し効果の早期発現を図る。

【別紙様式 4】

## 事業概要図

番号	1	事業名	社会資本整備総合 交付金（道路事業）	路線又は箇所名等	主要地方道 鎌ヶ谷本笠線バイパス
<b>位置図</b>		<b>標準断面図</b>			
		<p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>			
<b>平面図</b>					

【別紙様式5】

## 再評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	社会資本整備総合 交付金(道路事業)	路線又は箇所名等	主要地方道 鎌ヶ谷本埜線バイパス
事業化年度	平成8年度	用地着手年度	平成8年度	工事着手年度	平成10年度
<b>【再々評価（前回）の概要】</b>					
再々評価実施年度 (基準年)	令和2年度	供用開始年度	令和3年度	対応方針	継続
B/C	1.8 (11.6)	総費用	95億円 (14億円)	総便益	168億円 (168億円)
(※上段：全体事業 下段：( )：残事業) 再々評価時の委員会の意見及び当時の状況 継続することが妥当である。					
再々評価時の進捗状況及び再々評価時想定の5年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (R2)	5年後の想定進捗状況		
全体事業費	71億円	58億円 (81.8%)	71億円 (100%)		
うち用地・補償費	8億円	8億円 (100%)	8億円 (100%)		
うち工事費	62億円	49億円 (79.3%)	62億円 (100%)		
<b>【再々評価（今回）の概要】</b>					
再々評価実施年度 (基準年)	令和5年度	供用開始年度	令和6年度	対応方針	継続
B/C	1.7 (13.6)	総費用	116億円 (15億円)	総便益	198億円 (198億円)
※上段：全体事業費 下段( )：残事業費 現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (R05年度末見込み)			
全体事業費	78億円	72億円 (92%)			
うち用地・補償費	8億円	8億円 (100%)			
うち工事費	70億円	64億円 (91%)			
再々評価後の経過及び処理状況	・令和2年度 再評価(継続が妥当である) ・工事を継続実施				